



150th Anniversary of Nishida's birth

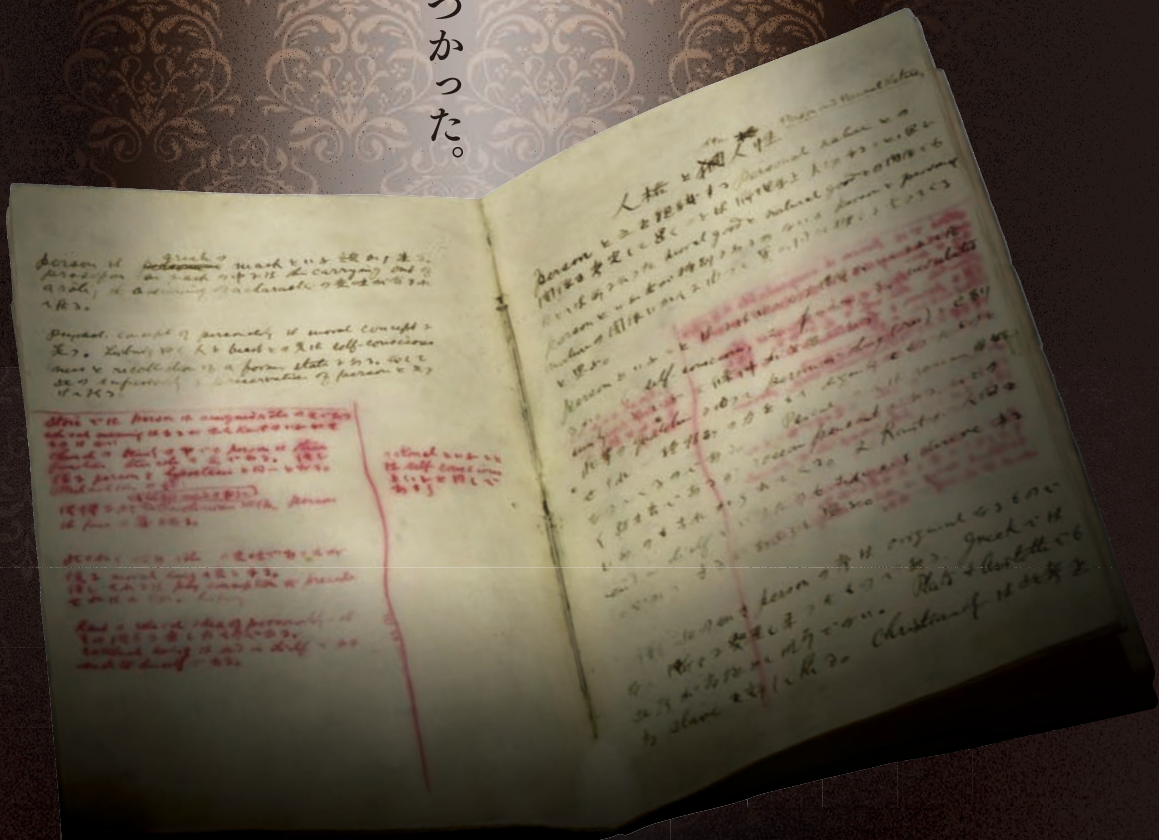
二〇一五年一〇月、  
五十冊の直筆ノートが見つかった。



西田幾多郎生誕一五〇周年記念

企画展

# 発見!! 幾多郎ノート



2020 3/24 (火) - 9/22 (火・祝)



館長・浅見 洋

半世紀ぶりの大発見!!  
西田哲学の形成を解き  
明かす重要な手がかりで、  
日本哲学史研究の  
新たな可能性を開く、  
貴重な資料です。



展示されるノートのレプリカ

### 企画展関連イベント

\*西田幾多郎哲学講座年間受講生は各回無料

- 4/18(土)** 「西田幾多郎ノートを開く—講義と思索の軌跡を辿る—」  
13:30-15:30  
講師：浅見 洋 (石川県西田幾多郎記念哲学館館長)  
参加費：500円、申込不要
- 5/23(土)** 「西田先生水濡れ資料（幾多郎ノート）の救出」  
13:30-15:30  
講師：板倉 正子 (NPO 法人書物研究会代表)  
参加費：500円、申込不要
- 5/24(日)** 「京都学派研究に使われている情報技術—幾多郎ノート翻刻を中心に—」  
10:00-12:00  
講師：林 晋 (京大名誉教授)  
参加費：500円、申込不要

6/14(日)  
翻刻体験会 (予定)

※5月1日より申し込みを受け付けます。

8/8(土)・9(日)  
レプリカ作成ワークショップ (予定)

※7月7日より申し込みを受け付けます。

石川県  
西田幾多郎記念哲学館  
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail [nishida-museum@city.kahoku.lg.jp](mailto:nishida-museum@city.kahoku.lg.jp)

■facebook でもイベント関連情報を随時更新しています。



観覧時間 ■ 9:00~17:30 (入室は17:00まで)

※4月1日以降は~17:00 (入室は16:30まで)

休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始 (12月29日~1月3日)

観覧料 ■ 一般300円 / 高齢者 (65歳以上) 200円 / 高校生以下無料

交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC] - 国道159号線 (約20分)

のと里山海道 [白尾IC] - (約5分)

【JR利用】金沢駅-IRいしかわ鉄道線・七尾線 (約25分) - 宇野気駅 -

- 徒歩 (約20分) - 哲学館



# 幾多見郎!!

西田幾多郎生誕  
一五〇周年記念  
企画展



2020  
3/24(火)-9/22(火・祝)

2015年10月、幾多郎のご遺族のもとから12個の紙包みが見つかりました。開いてみると幾多郎の直筆のノート50冊。およそ半数は、幾多郎が『善の研究』の原稿を執筆するなど自身の哲学を準備した、金沢時代のものと考えられます。美しいマーブル紙のノート、シンプルな大学ノート、様々なノートに、幾多郎は日本語だけでなく、英語・ドイツ語などをびっしり書いています。講義ノート、読書・研究ノート、そして、学生として帝国大学で講義を受けたノートも。これらのノートを通じて、これまで誰も知らなかった、懸命に勉強し、研究する若き日の幾多郎の姿を感じてください。



倫理学講義ノート内部

倫理学講義ノート表紙

帝大学生時代の仏教学受講ノート



帝大学生時代に  
夏目漱石と共にドイツ文学  
の講義を受けています。

ゲーテ「ヘルマンとドロテア」  
読書ノート



かわいいイラストが表紙の  
フッサールを読んだ読書ノート



田井屋の引札(複製)と田井屋マーク



宗教学講義ノート  
レプリカ

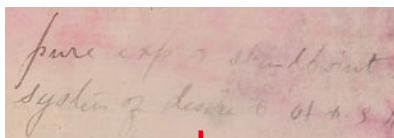
## 修復・翻刻・複製のプロジェクト

### ■修復作業



### ■翻刻作業

翻刻前



翻刻後

pure exp[erience] [純粹経験] の standpoint [立場]  
system of desire [欲求の体系] も外から...

発見されたノートは大変貴重なものですが、湿気を帯び、カビによる甘い香りを放って、そのままでは損壊は時間の問題でした。哲学館では多くの関係機関の協力を得て、修復と翻刻、そして複製のプロジェクトを進めました。

まず、真空凍結乾燥という特殊な方法で湿気を取り除き、固着したページを開きました。和紙に墨書きの資料と違い、洋紙にインクの資料は大変脆く、その作業は困難を極めました。内部を開いた資料は、インクが流れるなど、判読しにくい文字に悩みながら、京都大学、金沢大学の翻刻チームの協力を得て翻刻を進めています。また、資料そのものは損壊する恐れがあり、展示することができないため、精巧な複製を作成しました。今回の企画展はこの複製によって可能になりました。